

優しくない兄の優しさ

小坂井中・2 松井 紗也

私は三人兄弟の真ん中です。優しくない二つ上の兄とわがままで自由な四つ下の弟がいます。

「お兄ちゃんは好き。」

と聞かれた時の答えはいつも同じで、「嫌い。」

と言います。当たり前だ。嫌なことがあれば物に当たり、人に当たり、暴言を吐き、楽しい時間をつぶすから。私が頑張って何かをやっても「ひやーっひやっひやっ」と馬鹿にしたように笑うから。私の間違ったり失敗すると嬉しそうにからかってくるから。マジム力つくわあ。ガチウザい。

「しゅんじゃないお兄ちゃんがよかった。」

というところ。

「あっそ。」

とイラつかせる返事しかしないし。優しいところは一つもないと思っていました。でもある日を境に嫌い、優しくないと思わなくなりました。

二〇二二年七月、兄と私は三回目のコロナワクチンを打ちました。次の日の朝、いつもどおりに起きてご飯を食べました。その日の兄は朝早くからサッカーがあり、すでに家にはいませんでした。朝食後、弟に、

「さやあ。一緒にゲームやろ。」

と言われたので一緒に遊びました。ゲームをやっているうちに、頭が痛くなり座っていられなくなりました。母に頭痛薬をもらい、飲んで横になっていました。ところが時間が経つにつれて、熱が上が

り頭痛はひどくなりました。あまりにも痛くて横になるのもつらいほです。夜になり、兄がサッカーから帰ってくる

「紗也どうした。」

と真っ先に聞いてきました。私はぐったりしながらも

「副反応。」

とだけぶっきらぼうに答えました。

「ふーん。」

と素っ気ない態度でお風呂に入っていきました。お風呂から出てきて、兄弟一緒にテレビを見ていると弟が

「紗也、あっち行って。」

と言いながら私の肩をぐつと押してきました。それを見ていた兄が強い口調で弟に注意をしていました。私はその時頭が割れるように痛くて、まともに話すことも体を動かすこともできませんでした。

「頭痛い。」

というと保冷剤を持ってきてくれたり、冷たい水をくれたり、世話をしてくれました。母はみんなが夕食をとっている間も私のそばについてくれました。先に食べ終わった兄が

「お母さん、ご飯食べりん。俺と玲弥が紗也のこと見とくで。」

と言っていました。意外と優しいところもあるじゃんと思いきなり痛かったです。頭は痛かったけど、心の中のトゲトゲしい感情はなくなっていました。頭は痛かったけど、心の中のトゲトゲしい感情はなくなっていました。手伝ったり支えたりしているんだなと思いました。

二〇一三年一月、私は兄のインフルエンザがうつり、熱性けいれんを起こしました。救急車で豊川市民病院に運ばれ、点滴をして兄、弟、父が待っている家に帰りました。その夜、再びけいれんを起こしたので。再度救急車で病院に運ばれました。今度は一週間入院することになりました。

私はその時のことを母や友達に聞くまで、何にも知りませんでした。それに全く覚えていませんでした。唯一記憶に残っているのは、

駐車場に停めた車から上を見上げて心配そうに悲しそうな顔をしている兄と、病院の窓から兄を見ている私が手を振っていることだけです。後で母に

「なんであの時車の中にいたの、お母さんやお父さんと一緒に病院に入らなかつたの。」

と聞くと

「紗也の病棟は大人しかお見舞いに来られないんだよ。」

と言われました。

家に帰れず病室から出られない状況の中、兄の顔が見られただけで、ほっとしたのと嬉しさを感じたことを今でも覚えています。

私がまだ小学校低学年だった時のことです。家族でデイズニードへ行き、暗くなるまで遊んでホテルに帰ろうとした時、弟がいないことに気づきました。みんなで必死に探しました。母、兄、私でスタッフにいなくなったことを話している間、父は来た道に戻りながら探しました。その時、兄は涙を浮かべながら

「玲弥：見つかるよね。」

と今にも泣き出しそうな声で言いました。弟のことがものすごく心配で大切に思っていると感じました。その後すぐに父から見つかったと連絡があり、走って弟の元へ行きました。兄は弟を見つけた途端、泣きながら抱きしめていました。それを見て、兄の弟に対する愛情を感じました。

コロナが流行って、生活の中での制限が多くなりました。家の中で過ごす時間が増えて、兄がイライラすることが多くなりました。特に二人だけで過ごすことが多い夏休みは、喧嘩になるのが嫌で、必要なこと以外は話さないと決めていました。そうすることで、兄との衝突を避けていたのです。このような状態は二年程続きました。兄の暴力的な言動しか見ていなかったせいで、嫌なやつだと思いつんでいました。振り返ってみると、物や人に当たってキレまくる人ではない、家族を大切に思う優しい面もあることに気づけたのです。

人には良い面も悪い面もあります。悪い面だけを見て人を判断するべきではないことを学びました。嫌いな人にも必ず良い面があります。悪い面よりも良い面を知ろうと思えました。

ほんぶんおわり